

あじさい

—美しさ、気高さをを感じる心を—

1 学年 第4学年〔前期〕

2 主題名 美しいものに感動する心を〔3－（3）〕

3 ねらい

あじさいの花を見て、「今日の五七五」を書き直そうとした主人公の気持ちを考えることを通して、美しいものや気高いものに感動する心情を育てる。

4 資料名 「あじさい」

5 展開

	学習活動と主な発問	児童の反応	指導上の留意点
導 入	1 好きな花を紹介する。 ○ どんな花が好きですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ さくら ・ たんぽぽ ・ チューリップ 	○ 児童が好きな花を自由に発表させることで、資料への興味付けを行う。
展 開	2 資料「あじさい」を聞いて話し合う。 ○ ふうっとため息をついた「ひろし」は、どんな気持ちなのでしょう。 ○ ピンク色や青色のあじさいをじっくり見つめる「ひろし」は、どんなことを考えているのでしょうか。 ◎ 「ひろし」は、五七五をどのように書き直すのでしょうか。 3 自分の経験を振り返って話し合う。 ○ 何かを見て、きれいだな、すごいなと思ったことがありますか。それはどんなことですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早く雨がやまないかな。 ・ ドッジボールをやりたかったなあ。 ・ あじさいはいいなあ。 ・ 雨水をたくさんすって大きくなったんだなあ。 ・ 青いあじさいの形と色がいいなあ。 ・ ピンクも青もきれいだな。 ・ 「雨あがり あじさいを見て 元気出た」 ・ 「ピンクあお 二色なかよし みぎひだり」 ・ 「あじさいに だれがまほうを かけたんだ」 ・ 野呂山の登山道の緑が、きれいだなと感じたよ。 ・ 川尻の海から上る日の出を見た時、すごいなと思ったよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 雨で自分が遊べなかった時、どんな気持ちだったか想起させ、主人公の気持ちを考えさせる。 ○ ピンクや青のあじさいに美しさを感じ始めた主人公の気持ちに共感させる。 ○ ピンクと青のあじさいを見た主人公が、五七五を書き直そうとした気持ちに共感させるために、ワークシートに五七五で書かせる。 ○ 振り返りにくい場合は、導入で児童が挙げた花を好きになったわけについて考えさせる。
終 末	4 身近な美しい情景を見る。 ○ スクリーン（画面）に注目しましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美しいな、きれいだなと感じるものをもっと探してみたいな。 	○ 児童の身近な美しい情景を見て、美しいものや気高いものを感じ取らせる。

6 授業の概要

(1) 主題について

本主題は、中学年の内容項目〔3－(3)〕「美しいものや気高いものに感動する心をもつ。」に基づき設定した。この内容項目の「美しいもの」とは、人間の力が及ばない自然がつくり出す現象，人が人としてよりよく生きようとする姿，絵や写真，音楽の美しさなどである。また、「気高いもの」とは，品格があるもの，上品なものなどである。

児童が美しいものに接し，体験を増やしていく取組の中で，これらに感動する心情を育てたい。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 道徳の時間と他の教育活動の関連を図る

理科の「生き物のくらし」の学習，総合的な学習の時間の自然と触れ合う体験活動等と道徳の時間を関連付けるとよい。

イ 中学校区，校区，学校内の自然や特色を生かす

本資料は，美しいものや気高いものとしてあじさいを取り上げたが，中学校区，校区，学校内において児童がふれることのできる美しいもの，気高いものは他にも数多くある。中学校区の自然や特色といった地域のよさを十分生かし，児童の実態に合ったよりよい資料とするために，あじさいと同様地域を題材とした美しいもの，気高いものについて，自作資料を作ってみるのもよい。

(3) 指導過程の工夫

ア 導入の工夫

資料への興味付けを図るために，導入において児童の好きな花を挙げさせるとよい。この他の工夫例として，家庭や地域などで児童の発見や小さな感動を紹介し合う活動を通して，現在の自分の価値観に気付かせ，自覚を促すようにするのもよい。

イ 中心発問における学習活動の工夫

五七五のリズムを使ってワークシートに書かせることで，主人公の気持ちに一層寄りそわせたい。また，児童が作った五七五を発表し合い，五七五に込めた思いについて意見を出し合う活動を通して，児童相互の考えを深め，ねらいにせまらせたい。

ウ 価値の一般化の工夫

児童が資料による話合いを通して考えたことや感じたことを価値の一般化でも生かしたい。そこで，自己を見つめ，自分の問題として受け止めさせるという観点から，児童の直接体験やそのときの気持ち，考えが出てくるような発問を工夫したい。

エ 終末の工夫

終末で，児童の身近な地域で見たり触れたりすることのできる美しい情景を動画に収め，視聴させることもねらいにせまるための演出としては効果的である。この他の工夫例として，3・4年生の「心のノート」(P.64～65)の写真に合ったBGMを聴きながら情景を想像させるのもよい。

(川尻小学校 奥本雅幸)